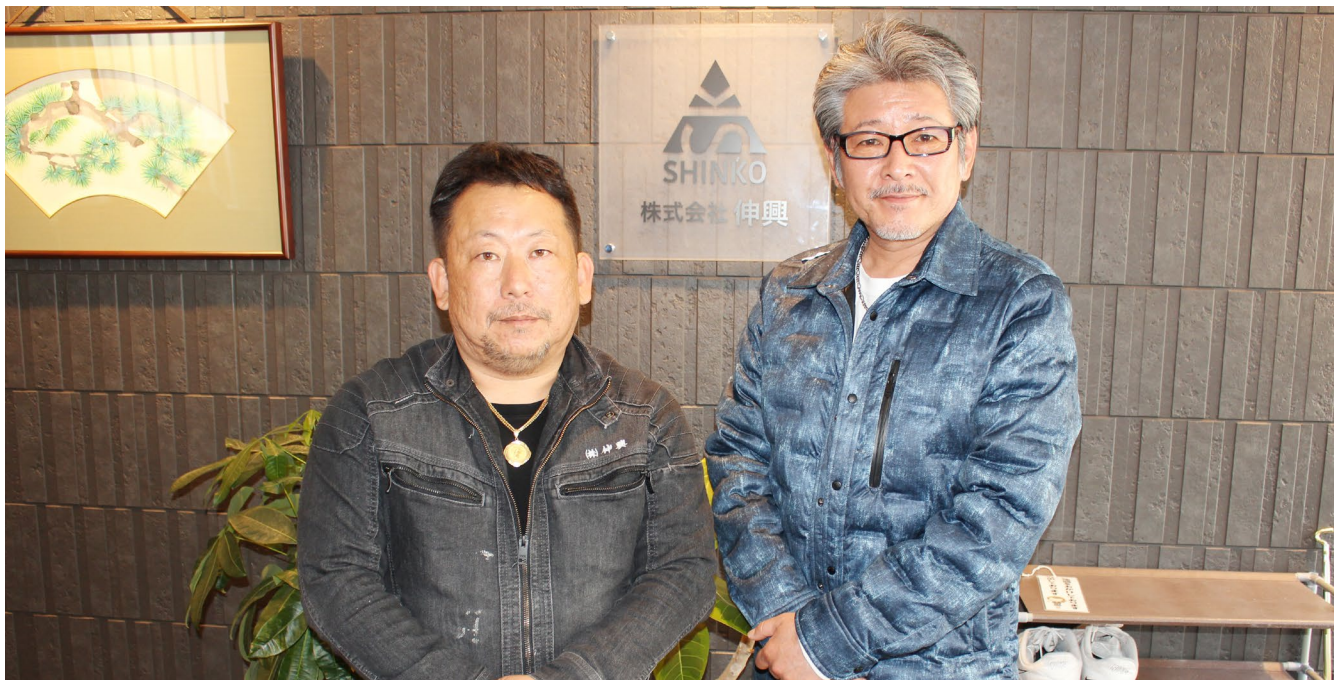


株式会社 伸興
代表取締役

山田 伸宣

10代で外壁工事の世界に飛び込み、10年にわたって修業した山田社長。
縁に恵まれて出会った仕事だったが、
工事を終えた後の達成感、お客様に喜んでもらえることがやり甲斐となり、
直向きに腕を磨き、道一筋に歩んできた。そして28歳で独立を果たす——。
外壁は家の顔であり、街の彩りの一つとも言える。
社長はこれからも、その美しい表情を描き続けていく。

「お客様に喜んでいただける施工を提供し、
街を彩り続けていきたい」



代表取締役

山田 伸宣

タレント

布川 敏和

SPECIAL X INTERVIEW

一つひとつの現場と向き合い、 技術と真心で信頼を紡ぐ外壁工事会社

外壁工事をメインに、リフォーム工事、屋根工事などを幅広く手掛けている『伸興』。個人事業として創業してから1年目の2020年に法人化も実現し、順調に業績を伸ばしている。10代で外壁工事の業界に飛び込んだ山田社長は直向きに腕を磨き道一筋に歩んできた人物だ。力強く事業を牽引する社長のもとを、本日はタレントの布川敏和氏が訪問し、その歩みや事業にかけの想いなど様々なお話を伺った。

——早速ですが、山田社長の歩みから順にお聞かせ下さい。

ここ大阪府四條畷市の出身です。小学生のころから野球を始めて、中学生までは日々の練習に打ち込んでいたのですが、野球を辞めてからはやんちゃばかりでしたね（笑）。学業を終え、社会人の第一歩を踏み出したのが現在の建築業界。中学卒業後にご縁に恵まれて、母の友人で外壁工事の親方をされている人のもとに弟子入りしました。当時はこれとやってやりたい仕事もなく、どんな仕事があるのかも分からない年齢でしたが、そこから現在までこの道一筋に歩んできました。

——では、このお仕事を選んだというより、たまたま携わるようになったのがこのお仕事だったと。それでも、こうして

独立しておられるわけですから、社長にとっては天職だったのでしょうか。

ええ。職人の世界は厳しいというイメージがありましたが、親方はとても優しい人で、理不尽な怒られ方をするようなこともなく、居心地は良かったですね。——それでも15歳というと、周りは皆遊び盛りでしょう。つらいと感じることもあったのでは？

いえいえ。日々様々な現場で腕を磨き経験を重ねる一方でしっかりと遊んでもいましたから（笑）。メリハリは大切です。若気の至りで時には遊びすぎて仕事に支障が出てしまう時もありましたが（笑）、若い時は少々寝なくても平気なので、仕事だけは辞めることなく続けました。

——（笑）。最初の勤務先では何年ほどお勤めをされたのですか。

20代半ばまでの約10年間です。そこからまた同業他社で3年間キャリアを重ねて、28歳で独立しました。最初の親方のもとを離れるころには、いずれ自分の手で事業を手掛けてみたいという想いを持っていましたね。

——28歳で独立という早いようですが、キャリアとしては13年も重ねておられますし充分ですね。

ただ、一度だけ別の業界に転向しようと思った時があるんです。大型トラックドライバーの採用試験に応募したのですが、面接で落ちました（笑）。もしあの時合格していたら、今ごろは運送業界で独立していたのかもしれません。

——とはいえ、長く続けてこれたのは、やはりこのお仕事に魅力があるからでしょう。

そうですね。ずっと外壁工事をメインにしてきましたが、外壁というのはいわば住宅の「顔」。ですから、工事が終わってきれいになった時にはお客様に喜んでいただけますし、工事を終えた時の達成感が大きいんです。丁寧にコツコツ業務をこなすという点でも、自分の性に合っていると思います。

——やはり社長にとって天職ですね。独立後は、勤めのころに比べて大きな変化もあったでしょう。

ええ。たとえば工事の材料費を負担しない手間請けなら職人の時と変わりませんが、材料を当社で手配するとなるとやはり大きく変わります。様々なリスクもありますから、慎重に進めなければなりません。独立したばかりのころは手形のこともほとんど知りませんし、失敗しながら学ぶことを繰り返して現在に至って

います。また、もちろん勤めのころと比べると責任も大きいですが、やり甲斐も大きくなりました。

——トライ・アンド・エラーの積み重ねで成長してこれたと。現在、従業員さんは何名いらっしゃるのでしょうか。

今は5人です。昔なら「見て覚えろ」で指導できたかもしれませんが、今の時代はそれでは難しい。それに、ちょっと仕事を覚えたらもうできると過信して辞めてしまう子も多いので、また一から新しい人を募集して指導するという悪循環です。そういった苦勞もありますが、今長く勤めてくれている者もいるので、これから期待していますし、引き続き人材を大切にしていきたいですね。

——従業員さんには、いつもどんなことをおっしゃっていますか。

何千万円もする高価な住宅の顔となる部分を施工させてもらうので、質の高い仕事をすることはもちろんですが、常に真心を込めてやるようにと言っています。たとえ小さな傷でもそのままにしておいて帰ってくるのではなく、その日のうちに補修までやって帰ってくるようにと。

——手掛けられた仕事はご近所の方もご覧になりますし、営業の場ですから決して手を抜くことはできませんよね。

おっしゃる通りです。ご依頼下さったお客様だけでなく、近隣など多くの方が見て下さいますし、「きれいになりましたね」と声をかけてもらえると、お客様も嬉しいでしょうし。当社では工事前や工事中は近隣の方へのあいさつやマナーにも細心の注意を払っています。

——実際に、ご近所の方から「うちもやってほしい」と言われたりすることもある



のでしょうか。

ええ。工事の仕上がりをご覧になった方からお声をかけていただいたり、お客様からご紹介いただいたりすることがありますね。悪い噂は広がるのが早いですが、良い仕事をしていれば徐々に評判は広まっていき必ず口コミや紹介につながる。そういった意味でも、一つひとつの現場を大切にしていきたいと思います。——お話も尽きませんが、最後にこれからの展望をお聞かせ下さい。

創業時の一番の目標は法人化でしたが、それも1年目で実現することができました。今後はより盤石な基盤を築き、いずれは自社ビルを構えるまでになりたいですね！

（2021年3月取材）

Pick up the story 歩んできた道に「絆」がある

▼まだまだ遊びたい盛りの15歳で、外壁工事の業界に飛び込んだ山田社長。「小学生の時から父がいなくて、母が夜も寝ないで働いていたのを見ていました。それで、自分も早く仕事をして母の力になれたらと思っていました。若くして社会に出ると様々な誘惑や甘い考えもあり、仕事が続かない人も多いだろう。その中で最初の親方のもとで10年間修業をしてきたという社長。数え切れないほどの苦勞があったに違いないが、何くそと歯を食いしばって立ち向かい、たどり着いた今がある。

▼そんな社長の姿をずっと見てきた社長のお母様にもお話を伺った。「中学卒業後すぐに社会に出て、仕事を続けてきてくれました。息子には感謝の思いしかありませんし、息子を支えてくれた仲間にも感謝しています」と語ってくれた。「中学時代の仲間とは今もつながりがあって、何でも話せて、困った時は助け合える間柄」だと社長。これからもそんな仲間や従業員、家族との絆を大切にしながら確かな歩みを進める。



「15歳で社会に出て道一筋にキャリアを重ねてこれた山田社長。私も高校生のころから仕事をしているので高校時代の思い出は薄く、未だに仲が良いのは中学時代の仲間。山田社長も中学時代のお仲間とは今もお付き合いがあるそうですから、これからもそのつながりを大事になさって下さいね！」 布川敏和・談

株式会社 伸興

大阪府四條畷市米崎町 13-31